

NEWS RELEASE

中村直勝博士愛蔵の古文書を一堂に展示する

特別企画展「古文書の魅力—没後 50 年 中村直勝と双柏文庫—」
を開催いたします

近鉄グループの文化事業である大和文華館では、2026 年 5 月 30 日（土）から 7 月 7 日（火）まで、特別企画展「古文書の魅力—没後 50 年 中村直勝と双柏文庫—」を開催いたします。

中村直勝博士（1890～1976）は『南朝の研究』や『日本古文書学』などの著作で知られる日本古文書学・日本中世史学の権威です。その膨大な研究業績に加え、京都大学、京都女子大学、大手前女子大学（現・大手前大学）において後進の育成にも尽力し、その門下からは多くの優れた歴史学者が輩出されました。

大和文華館が所蔵する「双柏文庫」は、中村博士が生涯にわたって蒐集した古文書コレクションです。その内容は宸翰、公武家文書、消息、願文、起請文、摺仏など広範にわたります。博士は古文書を通して、過去に生きた人々の声に耳を澄まし、その人間的な温かみや面影に触れることに大きな喜びを見出していました。博士の数多くの著作には、古文書を読み解く難しさとともに、そこから得られる楽しさや喜びが随所に記されています。

本展は、没後 50 年を記念し、中村博士がこよなく愛した「双柏文庫」の古文書を、博士自身の言葉とともに紹介します。博士のまなざしを通して、“古文書の魅力”をあらためて見つめ直します。詳細は別紙のとおりです。



中村直勝博士 個人提供

太政官符案
延暦 24 年（805）
大和文華館蔵後伏見上皇院宣
元弘元年（1331）
大和文華館蔵

別紙

<1> 展覧会について

1. 名 称 特別企画展「古文書の魅力—没後 50 年 中村直勝と双柏文庫—」
2. 会 期 2026 年 5 月 30 日（土）～7 月 7 日（火）
3. 開館時間 午前 10 時 00 分～午後 5 時 00 分（入館は午後 4 時 30 分まで）
4. 入 館 料 一般 630 円、高校生・大学生 420 円、小学生・中学生 無料
5. 無料招待デー 7 月 7 日（火）
6. 特別協力 大手前大学
7. 出陳品数 71 件

代表的な展示作品 ※所蔵先を記していない作品は大和文華館蔵

【Ⅰ. 中村直勝とその研究】

^{たじょうかん ぶ あん}
太政官符案 平安時代・延暦 4 年（805）

東大寺上司所切符 平安時代・天承 2 年（1132）

後伏見上皇院宣 鎌倉時代・元弘元年（1331）

足利尊氏自筆御神号 南北朝時代

足利尊氏寄進状 南北朝時代・康永 3 年（1344） 滋賀・園城寺

^{みぎょうしよ}
足利義満御教書 南北朝時代・至徳 2 年（1385） 滋賀・園城寺

【Ⅱ. ^あ或る人の書状】

源義経書状 鎌倉時代

^{もとどり}
豊臣秀吉 髻 書状 桃山時代

伊達政宗書状 江戸時代前期

片桐石州書状 江戸時代前期

【Ⅲ. ^{しんかん}宸翰の醍醐味】

花園天皇宸翰断簡 南北朝時代

^{ごうちみかど} ^{ごこうもん}
後土御門天皇宸筆仮名御告文 室町時代

後陽成天皇宸翰抄物 桃山時代

孝明天皇宸翰消息 江戸時代後期・安政 5 年（1858）

【Ⅳ. 古文書の靈に】

^{くらべうまのりじりきょうみょう}
賀茂祭競馬乗尻交名 桃山時代・天正 7 年（1579）

^{たかつかさのりひら}
鷹司教平書状 江戸時代前期

^{しんによかいのいんのみやにようぼうほうしよ}
深如海院宮女房奉書 江戸時代後期

＜２＞ 展覧会会期中のイベントについて

1. 特別講演：「中村直勝先生との出会い」

- (1) 日 時 6月14日(日) 14時00分から
- (2) 場 所 講堂
- (3) 講 師 京都国立博物館名誉館員 下坂 守氏

2. 日曜美術講座：「中村直勝博士の言葉でたどる双柏文庫」

- (1) 日 時 6月21日(日) 14時00分から
- (2) 場 所 講堂
- (3) 講 師 大和文華館 学芸部係長 一本 崇之

3. 列品解説

- (1) 日 時 毎週土曜日 14時00分から
- (2) 場 所 展示場
- (3) 解 説 大和文華館 学芸部

※上記の何れのイベントも参加は無料ですが、入館料が必要です。

※講堂の最大定員は100名です(先着順)。

以 上